

国づくりの 100 年デザインの提案」に寄せられた意見について

平成 15 年 8 月
「国づくりの 100 年デザイン」
タスクフォース事務局

意見募集状況

1. 寄せられた意見数

- 平成 15 年 7 月 31 日時点で 119 件の意見が寄せられた。電子メール、ファクシミリによる意見が大半であるが、中には大学生グループによる A3 カラー版 12 ページの提案もあり。

2. 意見をいただいた方の属性

- 高校生(2名)、大学生(94名)から 30代、40代、50代の社会人まで幅広い年齢層から意見あり。男女比は 2 対 8。大学生及び女性の比率が高いのは、女子大学の講義で本提案が用いられたことによる。

3. 関心の高かったテーマ

- 寄せられた意見を 3 テーマ別に分類すると以下の通り。(重複含む)
「多様なライフスタイルの実現」...72 件 「持続可能な社会システムへの転換」...26 件
「世界を惹きつける日本」...14 件 一般的なもの...20 件

4. 各提案に対する意見

- 提案 14「安全とふれあいの地域コミュニティ」に対する意見が多く(19 件)、バリアフリーの推進、ふれあいの場の創出など、高齢者、身体障害者の方へのいたわりを重視する意見が寄せられた。
- 提案 17「個性とゆとりを実現する自由時間大国」(意見数 14 件)、提案 11「世界でもっとも美しく魅力ある『水と緑の大都市圏』の創造」(意見数 11 件)に対しても関心が高く、これからの生活に関し、家族の団樂の時間や緑・自然の空間を重視する意見が寄せられた。
- 子供の生活環境に対する意見も多く(意見数 13 件)、お年寄りとの交流、安全で遊べる環境を重視する意見が寄せられた。ただし、提案 14 の子供に位置情報チップを着けることに対しては、安全であるという意見の一方で、なんだか怖いという懸念をあらわす意見もあった。

- 一方、提案2「京阪神グローバルインターフェイスシティ」については、大阪コ・ピラミッドを評価する意見と疑問を呈する意見が、ともに関西在住の方から寄せられた。（評価2件、反対2件） 評価の趣旨は、「100%再生可能なエネルギーの使用などの新しい技術の発想が豊か」、「都市の中に新たな自然ができエコライフがより身近になる」など。また、疑問の趣旨は、「ハードに頼るより、日本人の心、伝統の継承が重要」「ハコモノに頼ったがため、自治体が赤字で四苦八苦している現状を見ていない」など。

・寄せられた意見

いただいた意見を文意のまとまり毎に1つの御意見として区切った後、分類集計を行い、関連する提案毎にとりまとめています。基本的に、できる限り原文に近い形で掲載しておりますが、同趣旨の御意見が複数あった場合、そのうちの1つの意見を代表として掲載しております。

1. 「国づくりの100年デザインの提案」全体に関する意見

どれもいらない。行政機関は最低必要なインフラの整備だけでよい。
住宅の床面積を2倍、価格を半分にする。そのための法整備と規制撤廃を行う。
高速道路をフリー（無料）ウェイにする。 （以上 男性、43歳、自営業）

提案については、本来国が行うべき仕事と地方が行うべき仕事を区別して整理すべき。
国の機関が提案を行う内容としては、少し現状の把握や課題・問題点の整理が甘い。
（以上 男性、41歳、公務員）

一人ひとりがオドオドしないような道路にしてほしい。自転車で通っている私にとって、車は非常に怖い。道路の白線は狭い（歩道が狭い）。段差もある。電信柱が立っている。
（高校生）

日本の人口は5千～6千万人くらいが大変住みやすい。
海岸に風力発電、用水路に水力発電を設置したらどうか。
下水道をもっと整備して、川や海をきれいに保ち、後世に渡すべきである。
ものをどんどんつくって、どんどん売る感覚から脱却できるシステムをつくってほしい。
小・中学生は、一生のうち一番吸収できる時期である。よって、20人学級により、目が行き届くようにして、勉強させるべきである。 （以上 男性）

これまでの国土開発の延長の雰囲気を感じる。もの（インフラ）だけでなく、サービスを中心に絵をかけないだろうか。（男性、大学助教授）

是非やってほしい。大阪のシンボル、景気、政治的支持などメリットがありそうだからである。（男性、高校生）

他国の例を参考にし過ぎず、「日本」がいままで育ててきた風土を前向きにとらえ、歴史や地域の履歴を尊重した社会デザインを示すべきである。

経済が低下、予算減少時代にふさわしい、国土交通省が行う社会資本整備、特に公共事業の定義を再検討し、新たな分野の構築(ハードとソフトの融合)を積極的に行うべき。

（以上 男性）

100年後のデザインを考えるとときのメリットデメリットを明らかにするべきではないか。（女性、大学生）

外国人観光客に少しでも日本を身近に感じてもらえるように、現代的な雰囲気と昔ながらの伝統が調和した空間をつくってほしい。（女性、大学生）

魅力ある農村は交通アクセスの整備なしでは語れないと考えている。

都市を整備するにあたって、非人間的なものにならないようにしてほしい。100年デザインでは、日本人同士の間人間関係はますます薄れはしないだろうか。

（以上 女性、大学生）

学校教育の中である総合的な学習の時間で、100年後の日本の国を考える授業をしたらどうか。（女性、大学生）

100年の日本は戦争のない平和な世の中になってほしいと考えている。それぞれの国がそれぞれの文化を尊重できることが重要だと思う。（女性、大学生）

100年後は今と同じような仕事をしているわけではないと思うので、その点を考慮に入れてまちづくりをするべきである。（男性、大学生）

通訳ロボットを作成して語学の時間を減らしてでも、今の子供達に意見表明が中心となる学習をさせるべきではないか（女性、大学生）

地下フロンティアは核シェルターのために作るものではなくて、人間と自然が共存をす

るために作られるものであってほしい。 (女性、大学生)

費用や技術などの既存の概念にとらわれない、自由でバラエティーに富んだ発想ができる子供達の意見を国づくりの100年デザインに入れてみてはどうか。(女性、大学生)

身近な通勤ラッシュの問題から、地球規模での環境問題まで幅広く日本の未来像を描いている100年デザインは衝撃的なものでした。100年デザインを実現するにあたって日本人として協力できることがあったら是非協力させてほしい。(女性、大学生)

100年先の住宅を考える場合には、物理的な長期耐用はもちろん考慮に入れなければならないが、それ以上に、エコロジー空間をどうするかという視点が必要だ。(男性、会社員)

現在の京都は開発が進み町並みの景観が害されており、また市街地に公園・緑地の面積が少ないという問題もある。平安文化は大陸の文化を吸収し、独自の文化を築き始めた日本の文化の出発点であるが、残念なことに平安期の遺跡や遺構がほとんど残っていない。そこで、平安京の外縁(エッジ)を、現代の京都に緑のエッジとして描き、平安京の庭園・造園文化に根ざした創造的な新しい緑地空間をつくることで、都市景観に寄与し、市民や来訪者に都市圧から解放される時間と空間を用意することを、「100年後の国づくり-京都編-」として、造園・緑地学、地域環境保全学を学ぶ立場から提案したい。(大学生グループ)

ETCシステムを利用して、高速道路で途中下車(無料)できるようにすることで、地方都市への人の流入を活性化し、もって地域振興をはかるべきではないか。(男性、47歳、会社員)

一人の国民の目線で日本をみるとき、真っ先に進めてほしいのは「電線類の地中化」である。100年デザインの中では地上は緑と歩道だけという提案が見受けられたが、電線類を地中化するだけでも日本は大変魅力的な国になると思う。(男性、32歳、技術者)

海岸ブロックの飛散防止にも役に立つ「格子網工法」(H形鋼や溝形鋼を格子状に重ねて組み合わせ、交差点をボルト締めし、一辺10m、格子の升目2m前後の格子状枠体にブロックや大割石をつめこむ)をつかって、自然の海岸をとりもどし、海岸の美化運動をしていってはどうか。(男性、77歳、会社役員)

2. 「世界を惹きつける日本～アジアのグローバルセンターを目指して～」に対する意見等

(テーマに関する全般的な意見)

日本の未来都市国家を想像すると、まず世界国際道路がアジアから日本を通り、太平洋を渡りアメリカ大陸へ伸びる国際プロジェクトができる。世界が国際道路で結ばれ、自由に車で旅行できる世界になる。

国内では、各市町村の学校交通アクセス道路が、車道と完全に区別された歩行者・自転車専用の道路になる。市街地を通る鉄道の駅がすべて地下駅となり、地上は豊かな生活と自然が調和したランドパークのまちづくりが実現する。

日本は海洋開発が非常に悪く、島国という小さな国家を自直視して、海洋居住未来都市建設をしなければならない。海洋居住開発技術の進化は宇宙居住実現を可能とする。

(以上 男性、53歳、自営業)

(提案1に関する意見)

アジアのグローバルセンター設立について、具体的な土地問題、人権問題などの議論の上に立って提案すべき(提案1)。(女性、大学生)

提案1の日本の国づくりの知力や技術力を積極的に他のアジア各国に発信していくことはとてもよいことだと思う。(女性、大学生)

国家間の移動が鉄道でできたら交流も深まるため、提案1のアジア連携交通網は良いと思う。

船での移動も強化するべきではないか。(以上 女性、大学生)

(提案2に関する意見)

日本には、素晴らしい文化、伝統、心がある。しかし、日本人の心は戦後急速に途絶えてきている。戦後になくしたものを振り返り、取り戻すべきである。提案2の大阪にピラミッドよりも、伝統の保存、継承が必要である。(男性、32歳、会社員)

提案2の大阪にピラミッドなんて必要ない。これまでもさんざんいろんな建物を、いろんな自治体や団体がつくっているが、大きな赤字を抱えて四苦八苦している。同じことを繰り返すことはおかしい。(女性、34歳)

提案2の京阪神グローバルインターフェイスシティについては、自然を壊している現代社会において、太陽エネルギー発電や100%再生可能エネルギーの使用など新しい技術によって生み出される発想が豊かに感じた。(女性、大学生)

(エコ・持続可能な社会へ)エコピラミッドも意味はあるが、循環型社会や持続可能な社会を目指して、大都市に人工山脈をつくる。構造体は、安全な廃棄物でつくり、外郭は鉄とコンクリートその他の再生材でつくる。外側は自然土と森にする。廃棄物処理問題の緩和に加え、都市の中に新たな自然ができ、エコライフがより身近になる。

(以上 男性、42歳、会社員)

(提案3に関する意見)

提案3の空港島というアイデアは良いと思う。シンガポール国際空港のようにシャワーが浴びられたり、利用者にとって快適な空港整備をしてほしい。(女性、大学生)

(提案4に関する意見)

ドア to ドア交通システムでは、渋滞への対応を考えるべきである(提案4)。道州レベルの「国」づくりでは、それぞれの都道府県、市町村の色に染めることが必要。特色を生かした市、県、国づくりをして、心の充実を満たすことが良いと思う(提案4)。(以上 女性、大学生)

現存している歴史的建築物を保護したり、歴史上の建築物を再建したりして、風景を保存するべきだ。

災害に強い都市をつくってほしい。地震対策として地下に衝撃を吸収するものをつくってみてはどうか。

ドア to ドア交通システムを地下でやってみてはどうか。地下鉄のようにはりめぐらされた道路をディズニーランドのようにみんなが乗り回せるような乗り物で移動できるようにしたらいい(提案4)。(以上 女性、大学生)

提案4の道州レベルでの国づくりで、外国の考えを持ち込むことは日本の良さを消してしまう恐れはないか。(女性、大学生)

事故や渋滞が少なくなることはよいことなので、提案4のドア to ドアシステムを実現してほしい。(女性、大学生)

提案4のドア to ドア交通システムが実現すれば大変便利になると思うが、国民全体が今と変わらない時間帯で生活している限りは、混雑、渋滞が解消されるとは思わない。行政と企業とで話し合っしてほしい。提案17のようなものも有効と思う。(男性、大学生)

提案4の道州レベルでの国づくりで、「国」づくりのイメージとして外国の具体的な名前を出して、日本を分割してしまうことには違和感を感じた。(女性、大学生)

他の地域では知られていない行事や風習といった地域の個性を活かすには、道州制レベルでの国づくりが適当であると考えている(提案4)。(女性、大学生)

3. 「持続可能な社会システムへの転換～循環型・環境共生型国土の形成を目指して～」に関する意見

(テーマに関する全般的な意見)

日本は「雪が降る国」「雪が降らない国」の2つがある。同一制度、同一施策ではだめである。雪寒地帯は国土の2/3、人口は2千数百万人。カナダ一國に匹敵する活動がなされているという認識が、この提案にはない。

地球温暖化による環境、生態系への影響に対する研究が必要である。

地震国日本としての対策は永久の課題である。雪積期の地震対策を地域防災計画に盛り込むべきである。(以上 男性、会社員)

絵でのプレゼンはすばらしい。従前にはなかったことであり、IT時代にふさわしく、充分なる評価に値する。

食料、水、電気について具体的な目標数値があればよい。例えば、食料自給率120%、飲料水無料、化石燃料0%、自然エネルギー70%、原子力20%、メタン10%。

ヘリコプター・カジノ・海洋牧場など夢もほしい。(以上 男性)

循環型まちづくりは、これからの日本にとって重要になっていると思う。現在のゴミ問題に関して多くの課題がある。捨てられる量が多すぎて、その処分が追いついていない。自然エネルギーの活用は絶対に必要だと思う。地球が美しいまま残ってほしいと思う。(以上 男性、大学生)

実現したらとても暮らしやすいと思う反面、本当に実現するのだろうかと思う面もある。高齢社会、公害、資源の問題は、これからますます深刻になると思う。バリアフリー、リサイクル、エコなどに積極的に取り組んでほしい。(以上 女性、大学生)

現在、直接コンテナを輸送する手段が道路によるトラック輸送しか無い。JR貨物では狭軌であるため直接コンテナを載せることができないため、手間と費用が多くかかってしまう。そこで、貨物線の広軌化・共用線の四本線路への転換を図るべきではないか。
(-)

100年後の日本は、環境に配慮して緑多い国になってほしい。
快適な生活のために人混みの中でたばこを吸うことを禁止する法律を作してほしい。
(以上 女性、大学生)

心豊かな生活を送るには、街並みを美しくすること、建物と環境の共存がうまくなされる必要があると考えている。
(女性、大学生)

このまま環境破壊が進んでいくと地球規模での砂漠化が進むことが懸念される。緑がたくさんある地球社会が100年後にあればよいと思う。
(女性、大学生)

緑は人々の生活に最も大切な心と体の健康を促進させるので、もっと身近に緑や自然を感じることができれば、犯罪なども減り、不安定な世の中が明るくなるように思う。
(女性、大学生)

人間と動物が共存することができる社会を築いていくことが重要ではないだろうか。「森の日」や「水の日」などを設けて、自然の大切さを考える機会を増やしてみたらどうか。
(以上 女性、大学生)

大規模な環境開発をする場合どうしても住民の移動は避けられないが、どのような形で移動を円滑に行うかが決まらなければ、開発は失敗に終わるのではないかと。
(女性、大学生)

高速道路沿いに風力発電機を設置し、走る車の風を利用して風力発電してみてもどうか。
(-)

(安全安心の社会へ) 防犯を含む安全社会への欲求が高まると思われる。単にハード面でのシステムだけではなく、人間らしく生きられるシステムが重要。これには、ゆとりと余裕、あそびの部分が大切である。
(ハイ・モビリティ社会へ) 今後、低コストで国内移動できる手段や方法の多様化が望まれる。

(以上 男性、42歳、会社員)

日本の未来都市国家を想像すると、まず世界国際道路がアジアから日本を通り、太平洋を渡りアメリカ大陸へ伸びる国際プロジェクトができる。世界が国際道路で結ばれ、自由に車で旅行できる世界になる。

国内では、各市町村の学校交通アクセス道路が、車道と完全に区別された歩行者・自転車専用の道路になる。市街地を通る鉄道の駅がすべて地下駅となり、地上は豊かな生活と自然が調和したグランドパークのまちづくりが実現する。

日本は海洋開発が非常に悪く、島国という小さな国家を自直視して、海洋居住未来都市建設をしなければならない。海洋居住開発技術の進化は宇宙居住実現を可能とする。

(以上 男性、53歳、自営業)

(提案5に関する意見)

都会の中に自然に触れあう場所をたくさん設けることで、ヒートアイランドを防ぐべきだ(提案5)。(女性、大学生)

(提案6に関する意見)

提案6に危険地域を特定し住民の選択によって安全な場所に居住地を移動してもらうとあるが、実質的に強制移動させられる懸念はないか。(女性、大学生)

自然災害の多い日本にとって、多機能化した災害対策施設を充実させることによって、提案6のように危機に強い国土をつくることこそ重要だ。(女性、大学生)

(提案7に関する意見)

提案7の地下の活用の際に火災のリスクがあるのではないか。

モノレールなどを増やすべきではないか。

ノンステップバスやエスカレーターを増設するなどバリアフリーを推進することで、お年寄りの住みやすい社会を実現すべき。(以上 女性、大学生)

まちの中心から車をなくして、事故を減らし、環境にも配慮した、提案7はすばらしいと思った。(女性、大学生)

提案7などを実現することで、朝の通勤ラッシュが緩和されたり、あるいは、交通に係る各提案を複合的に実現することで100年後は夢のような日本社会が誕生すると思う。(女性、大学生)

「大都市近郊での芸術村づくり」「多拠点居住による豊かな暮らしの実現」「個性とゆとりを実現する自由時間大国」「美しく元気な ” ふるさと ” の創造」「人が主役の交通・物流システム」などは楽しいと思う。

都市近郊での芸術村づくりを市民団体と行政のパートナーシップで実践中。

スピード優先の社会をなんとかしないといけない。欲望をもっともっと減らし、スローでスモールに。

(以上 女性、自営業)

提案7の人が主役の交通・物流システムについては、都市から車がなくなれば、とても環境にも健康にも良いと思うが、なくなることに伴う問題点も提起されていればよいと思う。

(女性、大学生)

提案7の地上に緑を多くし歩道を作り、地下に道路を作るのは大変よいアイデアだと思う。

(女性、大学生)

提案7の動く歩道を付けることは確かに障害者にとってはいいことかもしれないが、健常者にとっては運動不足を引き起こしかねないのではないか。

(女性、大学生)

(提案8に関する意見)

自ら考え、選択し、生活を潤すために努力のできる国民が育っていくような、そんな100年後を期待している。

デポジット制度の徹底。ゴミ収集システムの全国統一。エネルギー資源を国民がつくる。といったことを循環型まちづくりで実現してみてもどうか(提案8)

(以上 女性、大学生)

4. 「多様なライフスタイルの実現～個性・ゆとりある社会の形成を目指して」
に関する意見

(テーマに関する全般的な意見)

市街化調整区域と都市計画区域外の宅地開発は、コンパクトシティの流れに反するので、基本的な制度を厳格化すべきである。農地の流動化施策とあわせて土地利用方針を打ち出すことが必要である。

(男性、38歳、公務員)

銀座では、地価高騰のため、300店もある銀座画廊街がなくなろうとしている。昔か

らの町並みを守り、長く住んでいる人が安心して生活できるようにしてほしい。

(女性、54歳、教員)

農業人口が増えることを期待する。都会の人は農業体験をする機会がないので、田舎の方へ行って、体験させることが大事である。

(男性、大学生)

地域コミュニティ振興のために必要なことは、コミュニティセンターや地区公民館等の整備を行い、生涯学習講座やミニデイサービス等を実施することである。そのため、このような事業に市町村、県、国等が率先して資金投入してほしい。

(男性、大学生)

現在は、経済的な豊かさのためなら何でもありの時代になってしまっている。この提案を見て、私は将来に対して、大きな希望を持てるようになった。こう生まれ変わるのだから安心と思うのではなく、まず今、自分たちでできることをやるのが大切なのだと思う。

(女性、大学生)

100年も先を見据えた提案が、これほど具体的に考えられていることに驚いた。

日本がこれほどまで人の手を加えなければ、元の自然の多い美しい国には戻れないのだと、まじまじ実感させられた。

提案の中に地下を利用するものが多かったが、交通手段以外で人が地下に集まるようなことは避けてほしい。いろんな天候や気温を感じることで自然を身近に感じられるのである。

都市に自然が戻ったら、都市住民は農村へ訪問するだろうか。農村は、都市住民の興味のわくような、その土地ならではのものを、自ら考え、個性を発見していくべきである。

(以上 女性、大学生)

都会に働き、地方にくらす方法について。月曜の午前都会に移動して、木曜夜に帰宅、週末は地方で暮らすライフスタイルが良いのではないか。

(男性、大学生)

高齢化が進むことが予想されるので、昔風のつくりの家や、日本風の造りの家で高齢者が住みやすい環境にするべきだ。

寝たきりの高齢者が増えないように、高齢者に学校などで活躍の機会をつくるべきではないか。

(以上 女性、大学生)

ロードサイドに緑や花を植え自然とふれあえるようにし、サイクリングコースを併設することで、二酸化炭素やガスを出さない環境にやさしい移動ができるようにするべきではないか。

(女性、大学生)

どこに住んでも一定の生活レベルが保てるように、それぞれの土地の特色を残した上で平均化をするべきではないか。(女性、大学生)

普段なんとなく乗っている電車が乗るだけで楽しいものになることはとても素晴らしいことだと思う。

各線の運賃の格差を埋めてほしい。どこに行っても同じ距離で同じ料金なのが理想だ。(以上 女性、大学生)

(提案10に関する意見)

経済的に豊かになったことで、日本独特の芸術や伝統芸能を大切にしている心がなくなってしまったような気がする。日本が誇れる芸術、伝統芸能などの復活を100年かけて取り戻したい。そのためにも国を挙げて大学などをつくり、芸術家、職人を育てていくべきである(提案10)。(女性、大学生)

世界中の国々に国内の芸術家たちの作品を発信する場所として、是非提案10を実現してほしい。(女性、大学生)

芸術には生きた芸術つまりライブのものもある、それを都心でない場所に見に行くことは難しいのではないか(提案10)。(女性、大学生)

提案10のまちづくりプロセスは過密状態を緩和する方法としてよいと感じた。インターネットを通じて都市と地方の交流をすすめるべきではないか。(以上 女性、大学生)

提案10のまちづくりプロセスは過密状態を緩和する方法としてよいと感じた。インターネットを通じて都市と地方の交流をすすめるべきではないか。(以上 女性、大学生)

都市近郊での芸術村づくりを市民団体と行政のパートナーシップで実践中(提案10)。(女性、自営業)

(提案11に関する意見)

提案11の都市に勤務地と住宅街が一緒に存在できるようにするというアイデアはす

ばらしい。

(女性、大学生)

人間の人格形成は住まいの環境に大きく作用されると考えている。東京を緑が多く、小動物などがたくさん生息する、安心してのびのび暮らせる街にしてほしい(提案11)。

(女性、大学生)

提案11を実現すれば、家族団らんの機会も増えるので良い。ただ、家事はロボットにまかせてしまうのではなく、人の手のかかっている方がよい。

(女性、大学生)

提案11にあるような街ができたらすばらしいことだと思う。

日本の四季を感じることができるまちが望ましいまちではないか。

(以上 女性、大学生)

提案11の自然と人が調和した庭園都市というのはとても良い。

(女性、大学生)

日本独自の四季折々の自然や伝統的な風景を保存し、育成することで、外国の人々が日本はすばらしいと思うようなまちづくりが必要だと考える(提案11)。

オフィスビルなどの高層ビルが魅力ある風景を台無しにしていると思う。家のように見えるオフィスというのを作ってみてはどうか。

(以上 女性、大学生)

100年後のことを計画して国づくりをするという発想はすごくすばらしい。

都会の中でも空気がきれいで、自然に触れ合える場所が欲しいため、東京に緑を増やす提案11を実現してほしい。

(以上 女性、大学生)

自然の光を感じることがあまりできなくなったことが残念であると考えていたため、提案11は是非実現してほしい。

(女性、大学生)

提案11の水と緑の大都市圏の創造の中の都心住宅には大変魅力を感じるが、地価の問題をどうやって解決するかがないと実現できないのではないか。

(女性、大学生)

アスファルトが原因の暑さを解消するために東京に緑を増やすべきだ(提案11)。

(女性、大学生)

家族がゆとりのある生活を送るためには、ロボットの利用などではなく、女性の視点にたったものの考え方が必要だと思う(提案11)。

(女性、大学生)

(提案 1 2 に関する意見)

日本はただでさえ狭いのに、提案 1 2 のグリーンベルトで囲んだらますます狭くなってしまわないだろうか。(女性、大学生)

提案 12 のグリーンベルトの外側に同心円状に人々が生活できるスペースをつくってみたらどうか。(女性、大学生)

毎日満員電車で揺られて学校に行くのはストレスがたまるし、これから社会人になったときに会社に行く際も満員電車に乗らなければならないことを考えると外に出ることも嫌になりそうなので、提案 12 のコンパクトなまちづくりは是非実現してほしい。(女性、大学生)

現代は機械の文明が豊かになった分、心の豊かさ・人間らしさが失われている。100 年後は自然を愛する文化を見直し、動物としての人間が住みやすい国にしたい。日本の 100 年後は 100 年前の姿に戻すべきだ。

子供達を良い環境で育てていきたい。学校などで木のぬくもりを感じる場面を増やしてほしい。木のぬくもりは心を育てるのではないか(提案 1 2)。 以上 女性、大学生)

ソーラーパネルなどを利用した環境に優しい街をつくってほしい(提案 1 2)。

環境破壊するガスを出さない生活ができるようにしたい(提案 1 2)。

(以上 女性、大学生)

(提案 1 3 に関する意見)

都市は、本来、自然と関わることの難しいが、海洋空間を利用して自然と共に暮らせる都市を構築するということに共感を持った。しかし、海にこれだけの開発を行うことは、天候の影響を受けやすい、海域環境を大きく変えかねないといったマイナスの要因もある(提案 1 3)。(男性、大学生)

提案 1 3 の「イルカもやってくるキレイな海」、「南の島にも劣らない美しい砂浜」は本当に夢のようだ。(女性、大学生)

(提案 1 4 に関する意見)

提案 1 4 の 24 時間セキュリティ管理は子供の安全上とても良い。

バリアフリーは現在でもたくさんの地域で整備が進んでいるが、今の障害者用の駐車場などは、健常者の理解がなく、本当に必要な人が使用できないという現状がある。各コミュニティで理解を深め、使用方法を考えていかなければならない。

コミュニティ内での施設の運営については、行政の管理では閉店時間が早い、使用手続きが面倒とのことで使用されていないのが現状。NPO又はボランティアで運営ができれば、この点は解消されると思う。 (以上 女性、大学生)

幼児期の情操教育は大変重要なことだと考えている。幼児教育施設に創造活動の空間を設け、夕方までは児童の遊び場として、夜は保護者とスタッフの交流の場として活用したら良いと思う。

提案14の居場所が分かるチップを子供の服に埋めるとするのは、学校が児童に不当に干渉するおそれがあるから好ましくないのではないか。 (以上 女性、大学生)

すべての年代の人に住みやすいまちこそ本当に住みやすい町なのだと思う。皆でコミュニケーションをとって楽しく過ごすことをサポートできるような施設がまとまってあるようなまちが望ましい(提案14)。 (女性、大学生)

中高年期・高齢期において健康で、生きがいのある生活を営むにあたってはスポーツカレジャーをすることが重要であると考えている。提案14の人々がスポーツや文化活動を通じて交流するコミュニティーを実現してほしい。

スポーツボランティア部隊などを地域レベルでつくってみてはどうか。

(以上 女性、大学生)

最近物騒なニュースが続くし、私自身も夜に見知らぬ人につけられた経験があり、皆が安心して暮らせる社会が一番大切だと思う。提案14にあるように、通学路、児童公園、それ以外にも人通りの少ない道には監視カメラを設置したり、パトロール体制のしっかりとした社会を実現してほしい。 (女性、大学生)

地域の中での人々のふれあいが薄れた現在、犯罪などが多発してしまっているという問題がある。提案14によって、コミュニティのセキュリティーが確保され、様々な多面的活動を通じて人々が皆知り合いになれば、よい人間関係が築かれ犯罪の多発はなくなるのではないかと思う。 (女性、大学生)

地方ではまだ高齢者にやさしくない交通体系がある。高齢者が買い物をしやすいような交通を整備することが重要なのではないだろうか(提案14)。 (女性、大学生)

働く女性が増えているため子供に常に付き添えない母親が増えてきている中、提案 14 のような小さな子供が子供達だけでも安全に遊べる環境は是非必要だと考えている。
(女性、大学生)

子供が外で安全に遊べることは重要なことだと思うから、提案 14 は早く実現してほしいと思います。
(女性、大学生)

老人ホームと保育園・幼稚園を同じ場所に設置してみてもどうか。高齢者と子供達の交流によって、子供達はあたたかさやぬくもりを感じることができ、高齢者には生きがいを与えることになるのではないかと(提案 14)。
(女性、大学生)

家族の中での生活のリズムがバラバラになりつつある現在だからこそ、遠出をしなくても近所に出かけて親子間のコミュニケーションが図れるような場があればいいと思う
(提案 14)。

私たちの生活の中に、子供からお年寄りの共有の場があれば良いと思う(提案 14)。
まだまだ高齢者の方はパソコン、インターネットへの関心が薄い。そのため情報を得やすくするため、一世帯に一台パソコン支給はどうだろうか(提案 14)。
(以上 女性、大学生)

安全とふれあいのコミュニティを作ることで大切なのは、お年寄りや体の不自由な人がもっと気軽に出かけられるような歩道の整備やバリアフリーの整備が大切であると思う。また、若い人とお年寄りがふれあい、伝統的なものや昔話などを伝えられるようなコミュニティがつけられると良いと思う(提案 14)。
(男性、大学生)

提案 14 の中であつた動く歩道は、逆に運動不足になってしまわないか。
(女性、大学生)

提案 14 の子供から高齢者の方まですべての人が触れ合うことのできる環境というものに心打たれた。
(女性、大学生)

提案 14 の安全とふれあいの地域コミュニティについては、目標とその背景が述べられている点が良い。
(女性、大学生)

提案 14 で子供にチップをつけることは 24 時間の監視につながるからなんだか怖い。
(女性、大学生)

安心して子供達が外で遊べるように、提案 14 の安全とふれあいの地域コミュニティーは今すぐにでも実現してほしい。（女性、大学生）

提案 14 にあった子供の服にチップを埋めることは監視の強化につながるのでやめた方がいい。（女性、大学生）

与えるだけでない子供への教育、人が動く社会を提案 14 安全とふれあいのコミュニティーの中で実現してみてもどうか。（女性、大学生）

（提案 15 に関する意見）

田舎暮らしにはあこがれるが、田舎の習慣や仕事の問題が気になっていた。集落生活バーチャル体験システムは画期的である。田舎暮らしのいい所(家や行事や近所づきあい)は残しつつ、必要な所は近代化させ、便利にしていくという、都市のいい所、農村のいい所をミックスさせた田舎暮らしの形成が必要と思う(提案 15)。（女性、大学生）

農村との交流はネット学習というものを越えて、人と人とが本当の意味での触れ合いをもてるようにした方がいい(提案 15)。（女性、大学生）

農業などを通じて自然と触れ合う経験といったものが、人々の気持ちに安らぎを与え犯罪などを抑止することにつながっていくのではないだろうか(提案 15、提案 18)
(-)

（提案 16 に関する意見）

「大都市近郊での芸術村づくり」「多拠点居住による豊かな暮らしの実現」「個性とゆとりを実現する自由時間大国」「美しく元気な ” ふるさと ” の創造」「人が主役の交通・物流システム」などは楽しいと思う。（女性、自営業）

（提案 17 に関する意見）

提案 17 で示されている家事労働の外部化は、家族の絆が弱まる原因になると思われるから反対である。（女性、大学生）

家族とのすれ違いの原因は長期休暇がしっかりと取れないことにあるのではないか。そこで、提案 17 の自由時間大国を実現することで家族のコミュニケーションの機会を増

やしたらどうか。

(女性、大学生)

日本人は働きすぎで、家族と共に過ごす時間が減少してきている。このことから現在はゆとりのある社会とはいえない。提案17の自由時間大国を実現させて本当のゆとりのある社会を築いていきたい。

(女性、大学生)

皆がお金を使わずに景気がよくないのは、時間的ゆとりがないからではないか。自由な時間があればそれだけ積極的に仕事に取り組むこともできるようになるのではないだろうか(提案17)。

(女性、大学生)

オフィスを中心に集めるのではなく、拡散させてその周りに住宅をつくってみてはどうか。

外国のように残業時間をなくして、家族優先の習慣を社会全体で作ることが必要だと思う(提案17)。

(以上 女性、大学生)

一人の時間や家族団欒の時間が日本は他国に比べて少ないと思う。ゆとりのある社会を築くには長期休暇の取得等が必要ではないか。そして、長期休暇の取得によって家族団欒の時間をつくることで、家族の絆がつよく明るい未来が実現できるようになるだろう(提案17)。

(女性、大学生)

休暇を増やせばゆとりが増えるというのは短絡的で、本当のゆとりとはなにかを問うべきだ(提案17)。

(女性、大学生)

休暇を増やせばゆとりが増えるというのは短絡的で、本当のゆとりとはなにかを問うべきだ(提案17)。

(女性、大学生)

バカンス法の制定がとてもいいと思う(提案17)。

(男性、大学生)

提案17 自由時間大国はいいと思う。というのも、現在は休みが集中するゴールデンウィークなどは結局混雑してストレスが発散できないという問題があるからだ。

(女性、大学生)

提案17について、家族の団欒の時間が増えることになるので大変素晴らしい。環境と人間が調和する社会の実現を目指してがんばっていきたい。

(以上 女性、大学生)

提案4のドア to ドア交通システムが実現すれば大変便利になると思うが、国民全体が今と変わらない時間帯で生活している限りは、混雑、渋滞が解消されるとは思わない。行政と企業とで話し合ってほしい。提案17のようなものも有効と思う。(男性、大学生)

「大都市近郊での芸術村づくり」「多拠点居住による豊かな暮らしの実現」「個性とゆとりを実現する自由時間大国」「美しく元気な”ふるさと”の創造」「人が主役の交通・物流システム」などは楽しいと思う。(女性、大学生)

提案17の自由時間大国の中で、学校での週休3日の導入や、職場の多様化を支援するために自宅でも仕事ができるようにすることはできないだろうか。(女性、大学生)

(提案18に関する意見)

都市の生活が便利になりすぎて農村で生活し、作物を育てようと思う人が少なくなってしまうのではないか。日本人に農村のすばらしさを伝えることが重要だ(提案18)。(女性、大学生)

提案18の農場やフラインガルデンの管理は高齢者や少ない人手では十分にできないのではないか。(女性、大学生)

農村という空間そのものが新しい商業になる可能性を秘めている提案18のふるさとの創造を実現して欲しい。(女性、大学生)

農業が教えてくれるのは、生き物の大切さ、作物を育てることの大切さ、食べることの喜び、自然のすごさなどといった普段生活しているだけでは学ぶことのできないものである。日本の農業はまだまだ誇れるもので、これからもおおいに伸ばしていくべきではないか(提案18)。(女性、大学生)

農業などを通じて自然と触れ合う経験といったものが、人々の気持ちに安らぎを与え犯罪などを抑止することにつながっていくのではないだろうか(提案15、提案18)。(女性、大学生)

「大都市近郊での芸術村づくり」「多拠点居住による豊かな暮らしの実現」「個性とゆとりを実現する自由時間大国」「美しく元気な”ふるさと”の創造」「人が主役の交通・物流システム」などは楽しいと思う。(女性、大学生)

(提案 19 に関する意見)

提案 19 の住宅の百年構想については共感できる。ぜひ実現してほしい。 (男性)

都市の生活を快適にするという考え方はよいが、そうすると農村部との格差が広がったりはしないか。

家族の人数の変化によってリフォームを繰り返し、住宅を変えていくという、提案 19 百年住宅構想は実現したら是非住んでみたい。 (以上 女性、大学生)

日本にヨーロッパ建築を持ち込み街並みを全部変えてしまおうとか、そういったもっと思い切った発想があってもよかったのではないだろうか (提案 19)。 (女性、大学生)

一昔前の日本のように、家庭を持ったら同じ地域に住み続けそこでの文化や伝統を受け継いでいくというのが理想であろう。だから、家族構成や家庭環境が変わってもリフォームを繰り返して長年住み続けていける家ができたらいいと思いました (提案 19)。 (女性、大学生)

(提案 20 に関する意見)

交通事故というのは、加害者側に重度の過失がある場合においては、交通事故というより殺人に近いものがある。そういった事故を防ぐ意味でも、提案 20 の交通事故被害者ゼロの交通システムはよいと思う。 (女性、大学生)

提案 20 の運転する人も歩行者も安心して移動できる交通システムは素晴らしい。 (女性、大学生)

不慮の交通事故で命を落としてしまう人が多くいることは大変残念なことである。提案 20 の交通事故被害者ゼロの交通システムに期待している。 (女性、大学生)